

～南陽の新時代を拓いた豪族の墓～ かもうだやまこふん 蒲生田山古墳

市指定有形文化財（史跡）

現在、ハイジアパーク南陽がある蒲生田山丘陵は古墳の山でした。丘陵の東南向きの斜面を中心に横穴式石室をもつ小円墳が 10 数基あったと言われています。かつて「赤湯古墳群」と言われ、その数 500 余と伝えられた飛鳥・奈良時代のお墓の北西端に位置します。沖郷地区を中心に赤湯も含む水田地帯を開拓した人々の先頭に立った豪族のお墓です。多くは奈良時代、つまり出羽国ができる頃の墓です。現在はハイジアパーク南陽の奥、えぼし窯に至る道を行くと、市史跡として保存されている 1 号墳に至ります。蒲生田山古墳群は、その出土品とともに古くから全国に知られていて、近年では文化庁の専門職員も訪れ、出土した刀剣や須恵器などは市の埋蔵文化財分室に保管されています。

この蒲生田山丘陵の尾根筋に 3 基の古い古墳があります。ハイジアパーク南陽の建設に伴って発掘調査が行われて発見された古墳です。尾根筋の高い方に 4 号墳、3 号墳と長さ 30m 程の前方後方墳、低い方にやや小規模の前方後円墳である 2 号墳があります。前方後方墳は、平面形が大きな四角形に小さな長方形が付いた、四角い柄鏡のような形をしています。特徴は墳丘が低く後方を巡る溝は幅広く深いのに、前方部を巡る溝が狭く浅いことです。これは、稲荷森古墳のような前方後円墳よりかなり早く出現するもので、古墳の祭事に使用されたとみられる、底に孔の開いた底部ていぶ穿孔壺せんこうづぼからみると 4 世紀前半の、米沢盆地に古墳文化が伝わった頃に築かれたことが分かります。川西町の天神森前方後方墳に先行するようです。蒲生田山丘陵の南に広がる吉野川扇状地の村々を従えた豪族の墓とみられます。3 号墳、4 号墳、2 号墳と築き、やがて支配地を拡大し大きな力ではるかに大きな稲荷森前方後円墳を築いたのでしょう。蒲生田山古墳群からは眼前に稲荷森古墳が見えます。

4 世紀前半、古墳時代という新時代の幕開けのとき吉野川扇状地を拓いた豪族の墓、前方後方墳が次々と築かれ、やがて小さな前方後円墳に、そして拓いた沃野に巨大な稲荷森古墳を築くのです。



そして 300 年後の 8 世紀前半、出羽国が出来る頃、倭王権政府の役人や移民が大規模な開拓を行います、その時の役人や豪族達が小さな横穴石室の古墳を数多く築いたのです。蒲生田山古墳群に眠っていた人々は、新しい時代の初めに南陽の沃野を拓いた先人達なのです。彼らあって私達があることを忘れてはなりません。

南陽市文化財保護審議委員 佐藤鎮雄
平成 25 年 10 月 1 日号 市報なんよう掲載